

令和5年度 福島区運営方針

資料7

(所属長：深津 友剛)

「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」

目標	福島区が「人と人がつながり支え合うことにより、お子さんからお年寄りまで誰にとってもこれからも住み続けたいまち」となること。
使命	「SDGs(持続可能な開発目標)」の理念の下、人と人とのつながりを基盤として、防災・防犯、子育て・教育、福祉・健康といった観点で、区民が満足して生活できる環境づくりに努めるとともに、まちの魅力を様々な方法で区内外に広く発信する。
令和5 所属運 基本的 考え方	福島区は、過去20年に渡って人口が増加傾向にあり、それに伴って区民の行政に対するニーズや、生活環境に対する価値観が多様化してきている。 サンプル

重点的に取り組む経営課題

経営課題1 人と人がつながるまちづくり

	3決算額	23百万 円	4予算額	34百万 円	5予算額	36百万 円
課題認識	・幅広い地域活動に取り組む地域活動協議会は公正な組織運営が求められるため、作成書類を減らすことは困難であるが、継続的な活動のためには少しでも負担を減らせるような効果的な支援が必要である。 ・若年世代にも地域活動に関心を持ってもらうためにはICTを活用した広報活動が効果的と考えられるが、各地域にノウハウの蓄積が少ないことから技術的な支援とともに地域を超えた幅広い情報共有が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しつつ地域活動が円滑に行われるよう支援方法を検討する必要がある。					
主な戦略	・地域活動の活性化と組織運営支援 ・地域活動に関する広報の充実					
アウトカム 指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)	①地域活動協議会の構成団体を対象としたアンケートにおいて、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：89% ②地域活動協議会を知っている区民の割合：52%(無作為抽出アンケートによる)					
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成				前年度実績	
					①88.7%	
					②51.8%	

経営課題2 安全・安心なまちづくり

3決算額

3百万 円

4予算額

7百万 円

5予算額

6百万 円

課題認識

・災害時の「自助」「共助」の取組の重要性を啓発し、自主防災組織の運営や災害時に支援を要する区民の日常の見守り体制づくりを支援し、災害に強いまちづくりを進める必要がある。

・人口増加などに伴い人の往来も増え、自転車盗など一瞬の隙を狙った街頭犯罪のリスクが身近なものとなっている。また、近年では高齢者の特殊詐欺被害も大きな課題となっている。区民の更なる防犯意識の向上とともに、区及び地域並びに警察と連携を行い、防犯活動を推進する必要がある。

主な戦略

- ・自主防災組織等の防災活動・訓練への支援
- ・防犯カメラ・街路防犯灯の設置等

アウトカム
指標
(経営課題
合を示し

①自分でできる災害時の備え（自助）や地域住民同士による助け合い（共助）の重要性について認識していると答える訓練等参加者アンケート回答者の割合：80%以上

の割合：

アウト
指標の達
(定量評

サンプル

経営課題3 次世代を元気に育むまちづくり

3決算額

9百万 円

4予算額

17百万 円

5予算額

18百万 円

課題認識

【妊娠期から就学前の子どもを持つ親に対して】

- ・妊娠期から適切な助言や支援を受けることや、育児の知識を一方向的に提供するだけでなく親同士が交流したり気軽に相談できる場が提供されることが必要である。

【就学中の子どもに対して】

- ・区内の学校園や地域の実態を把握し、安全で安心できる教育環境の実現や、学力・体力の向上などの教育課題を解決するため、学校園と連携し、体力向上をはじめとする各種課題解決に向けた取組を実施する必要がある。

主な戦略

- ・妊娠期から就学前の子どもを持つ親に対しての子育て支援
- ・小・中学生の体力、学力向上事業

アウトカム
指標
(経営課題の進捗度
合を示した指標)

①アンケートで「区役所の取組によって子育ての不安や負担感が軽減された」と回答した割合：80%以上

②区内において、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議（教育会議）」の委員の割合：100%

アウトカム
指標の達成状況
(定量評価)

5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成

前年度実績

①97.6%

②100%

経営課題4 誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり

3決算額

16百万 円

4予算額

16百万 円

5予算額

16百万 円

課題認識

・複雑化・多様化する住民の生活課題に対応し、課題解決を図るためには、課題を早期に発見できるよう相談支援体制を整備し、包括的に相談・支援を行う必要がある。

・一人暮らしの高齢者など支援が必要な人が地域で孤立しないよう、日頃から声かけや見守りを行うなど、地域で支え合い助け合ことができるコミュニティづくりを進める必要がある。

主な戦略

- ・生活課題の解決に向けた相談支援体制の充実
- ・お互いに気かけ、つながり、支え合う地域づくり
- ・各種検診・健康診査の啓発
- ・介護予防の取組

アウトカム
指標
(経営課題の
合を示した)

①「みんなの相談室」利用者へのアンケートで「相談して良かった」と回答する割合：90%以上

アウト
指標の達
(定量評

サンプル

ているア
い喫茶な

経営課題5 魅力あふれるまちづくり

3決算額

9百万 円

4予算額

22百万 円

5予算額

23百万 円

課題認識

・まちの魅力を区内外の多くの方に知ってもらうには、地域住民や企業、商店街等との連携を一層深めながら、「のだふじ」をはじめ「グルメのまち」など区の魅力を発信できるイベントを実施することが効果的である。

・まちの魅力の一つとして緑化活動を安定的に継続できるように、新たな担い手を募るなどボランティアの負担を減らす方法を検討しつつ、区民との協働による花とみどりの取組を推進する必要がある。

主な戦略

- ・区の花「のだふじ」をはじめ地域の魅力を活かした各種イベント事業
- ・区民との協働による花とみどりのまちづくり

アウトカム
指標
(経営課題の進捗度
合を示した指標)

①（区の魅力度）区主催イベント等のアンケートにおいて「魅力あるまちだと感じる」との回答者の割合：70%以上。

アウトカム
指標の達成状況
(定量評価)

5年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成

前年度実績

①95.4%

自己評価
(運営方針全体
の定性評価)

今後の方針

経営課題ごとの取組

経営課題1「人と人がつながるまちづくり」に関する取組				
主なSDGs ゴール ※	10人や国の不平等をなくそう 16平和と公正をすべての人に 17パートナーシップで目標を達成しよう			
取組の方向性 「福島区将来ビジョン」より	地域活動協議会をはじめとした地域団体が実施する事業の活性化等を支援するとともに、若い世代やマンション住民などにも地域活動への参加を促し、地域コ サンプル			
令和5年度の 取組概要	とともに に、地域活動協議会の認知度向上を図るため、広報紙等を活用した周知に努めるほか、地域活動の財源獲得に向けて、コミュニティビジネスを促進するなど活性化に向けた支援を行う。			
令和5年度の 主な取組	取組内容	3決算額	4予算額	5予算額
	地域活動協議会の活動の活性化に向けた支援	22,632 千円	33,753 千円	35,547 千円
	地域活動協議会の認知度向上に向けた支援	— 千円	— 千円	— 千円
	合計	22,632 千円	33,753 千円	35,547 千円
年度末における 自己評価				
今後の方向性				

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

経営課題ごとの取組

経営課題2「安全・安心なまちづくり」に関する取組				
主なSDGs ゴール ※	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に			
取組の方向性 「福島区将来ビジョン」より	淀川の氾濫や南海トラフ巨大地震等による被害が想定される中、区民一人ひとりの「自助」「共助」の防災意識の向上に取り組めます。 サンプル 少・抑止			
令和5年度の取組概要	避難できよう支援 を進めるとともに、「自助」「共助」による区民の防災力の向上に努める。 また、防犯カメラ・街路防犯灯の設置等、地域・警察・区役所が連携し、防犯意識の向上と街頭犯罪の減少・抑止をめざして各種事業に取り組む。			
令和5年度の主な取組	取組内容	3決算額	4予算額	5予算額
	避難所開設訓練等への支援	866 千円	1,294 千円	981 千円
	小・中学生の防災意識の向上	— 千円	72 千円	72 千円
	地域防災イベント	— 千円	400 千円	900 千円
	中学生被災地訪問事業	139 千円	2,241 千円	2,218 千円
	防犯カメラ・街路防犯灯の設置、防犯啓発による安全なまちづくり	1,969 千円	2,600 千円	2,000 千円
	合計	2,974 千円	6,607 千円	6,171 千円
年度末における自己評価				
今後の方向性				

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

経営課題ごとの取組

経営課題3「次世代を元気に育むまちづくり」に関する取組				
主なSDGs ゴール ※	4 質の高い教育を みんなに 16 平和と公正を すべての人に 17 パートナーシップで 目標を達成しよう			
取組の方向性 「福島区将来 ビジョン」 より	子育てしている親の不安感等の解消のため各種施策に取り組めます。 また、学校教育の現場へ、適切に対応した支援を学校と連携して行います。 サンプル 、疲労感 実施する 事業」な と休養者の養育力向上を支援する事業にも取り組む。 また、小・中学校の児童・生徒に対しては、トップアスリートによる「ゲストティーチャー事業」など「体力向上」に向けた事業を実施するとともに、民間事業者を活用した放課後・夜間における学習支援など「学力向上」に向けた取組を進めるほか、学校と連携して子どもとその家庭を支援する「こどもサポートネット事業」に取り組む。			
令和5年度の 主な取組	取組内容	3決算額	4予算額	5予算額
	育児不安軽減に向けた子育て支援事業	1,408 千円	1,368 千円	1,709 千円
	区役所庁舎を活用した子育て支援事業	455 千円	600 千円	600 千円
	小・中学生の体力向上事業	164 千円	360 千円	408 千円
	小・中学生の基礎学力向上事業	7,210 千円	14,350 千円	14,825 千円
	合計	9,237 千円	16,678 千円	17,542 千円
年度末に おける 自己評価				
今後の方向性				

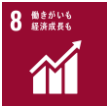
※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

経営課題ごとの取組

経営課題4「誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり」に関する取組				
主なSDGs ゴール ※	3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップで目標を達成しよう			
取組の方向性 「福島区将来ビジョン」より	住み慣れた地域の中で、高齢者や障がい者など支援を必要とする方々が、自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、地域住民や企業、団体、関係機関等多様な主体と連携しながら地域福祉の推進に取り組みます。 心高め サンプル る、つな い」、「支			
令和5年度の 取組概要	え合い」といったつながりを実感できるよう、地域福祉コーディネーターの活用や有償ボランティア事業等による地域福祉を推進する。 また、誰もがいきいきと毎日を暮らせるとともに、日頃から健康への関心を高めてもらえるよう、「いきいき百歳体操」の啓発・継続支援に取り組む。			
令和5年度の 主な取組	取組内容	3決算額	4予算額	5予算額
	多様な福祉ニーズへの対応	15,224 千円	15,223 千円	15,446 千円
	地域でのつながりづくりと支え合い、助け合いの意識啓発	— 千円	— 千円	500 千円
	がん検診の受診率向上	296 千円	395 千円	383 千円
	いきいき百歳体操の普及・継続支援	— 千円	— 千円	— 千円
	合計	15,520 千円	15,618 千円	16,329 千円
年度末における 自己評価				
今後の方向性				

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

経営課題ごとの取組

経営課題5「魅力あふれるまちづくり」に関する取組				
主なSDGs ゴール ※	  			
取組の方向性 「福島区将来ビジョン」より	地域住民や企業、商店街等との連携により、区の魅力を発信できるイベントを実施するとともに花とみどりのまちづくりを推進するなど、活気とうるおいあるまちをめざします。			
令和5年度の 取組概要	サンプル 「のだふじ」 「だふじ」 魅力の発			
令和5年度の 主な取組	取組内容	3決算額	4予算額	5予算額
	「のだふじ巡り」など区の特性を活かしたイベントの実施	8,967 千円	21,742 千円	22,151 千円
	花とみどりのまちづくり事業	487 千円	544 千円	572 千円
	合計	9,454 千円	22,286 千円	22,723 千円
年度末に おける 自己評価				
今後の方向性				

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。